

市民の豊かな学びに向けた 図書館ビジョンの推進について（検討報告）

「横浜市図書館ビジョン」（令和6年3月策定）の具体化に向け、6年12月に公表した「今後の市立図書館再整備の方向性」に基づき進めている主な取組について現在の検討状況を報告します。

（本日の説明事項）

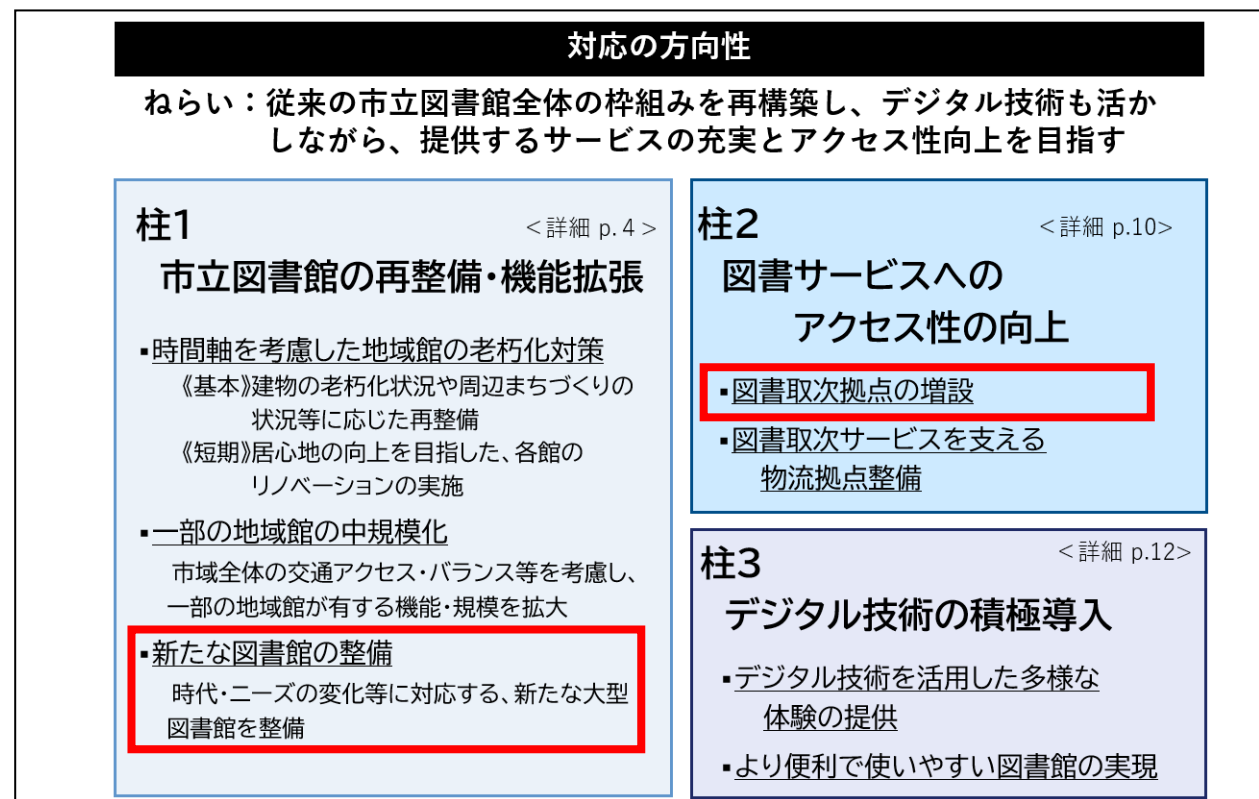
1. 新図書館の整備

現在検討中の整備基本構想のうち、コンセプトと立地の検討状況について、ご説明します。

2. 図書サービスへのアクセス性向上

図書取次拠点の増設に向けた現在の検討状況について、ご説明します。

<参考> 今後の市立図書館再整備の方向性（R6.12）



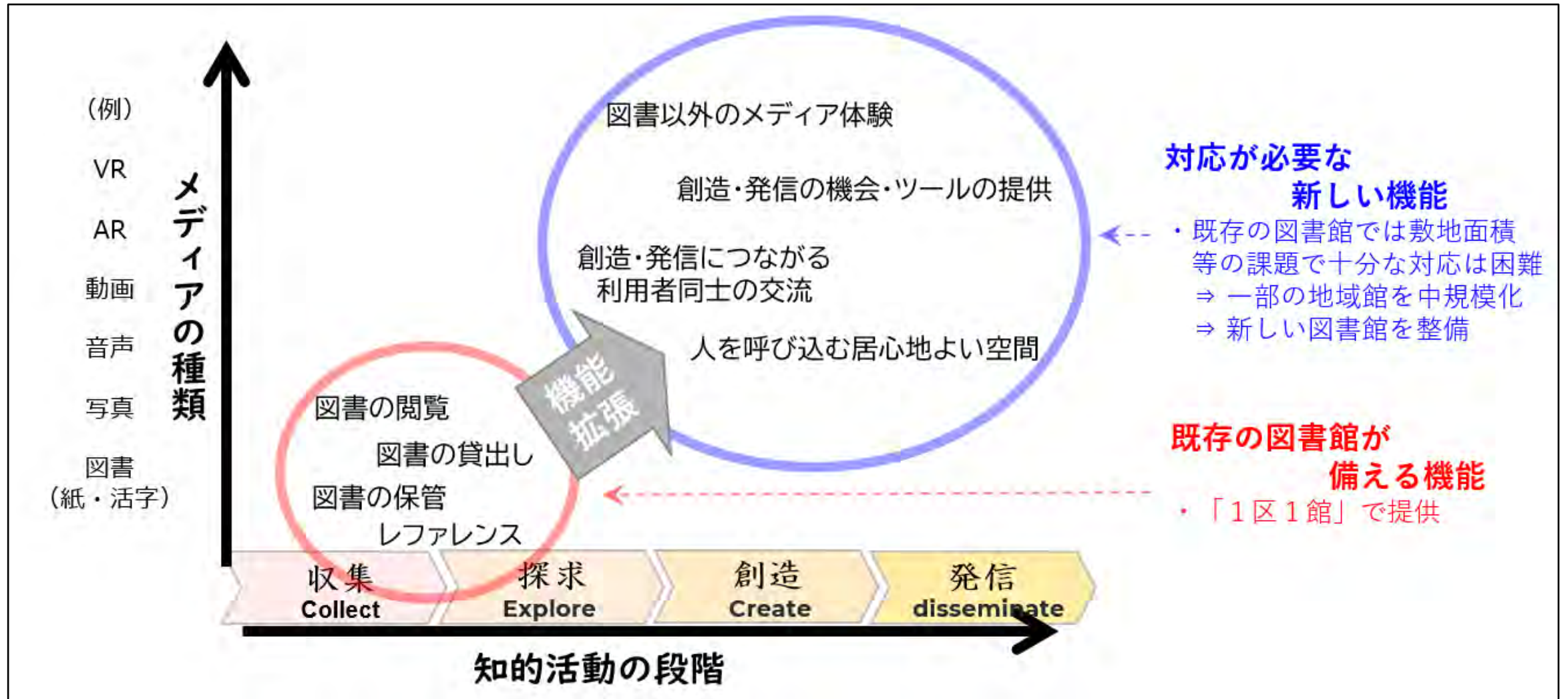
1 新図書館の整備

(1) 整備の必要性

時代・ニーズの変化や老朽化・狭あい化等市立図書館が抱える課題に早期に対応し、市立図書館が提供するサービスの充実とアクセス性向上を目指して、次の2つの観点から、新図書館を整備します。

- ・ 図書を含めた多様なメディアへの対応、知の創造・発信を担う
新たな機能・諸室の整備
- ・ 中央図書館が担う物流機能を強化する、新たな物流拠点の整備

＜時代の変化・ニーズの多様化を踏まえた今後の図書館に求められるサービス＞



(2) 現在の検討状況

ア 目指す姿と基本方針

「横浜市図書館ビジョン」では、「**新たな図書館像**」を“子どもから大人まで、みんなが主役になれる場”と示しており、そのために必要な5つの視点（※）を掲げています。

※5つの視点：「知る・学ぶ・深める」「つどう・憩う」「遊ぶ・体験する」「まちとつながり・交流」「連携・協働」

新図書館では、これを念頭に、現在の本市の図書館が備える①「**図書の貸出・閲覧等基本的な機能**」に加え、②「**多様化するメディアや創造・発信という個人による知的活動の活発化への対応**」、③「**様々な人の交流や連携などの機会の提供**」の3つの方針のもと、具体的な機能等の検討を進め、「**新たな図書館像**」の実現を目指します。そして、**新たな価値を生み出す“まちの拠点”**となることを目指します。

＜新たな図書館像の実現に向け、追加が必要な方針＞

現在の
図書館

①「図書の貸出・閲覧等
基本的な機能」の提供

②多様化するメディアや、創造・発信という
個人による知的活動の活発化への対応
③様々な人の交流や連携などの機会の提供

5ページで説明

6ページで説明

図書館ビジョンで示した「新たな図書館像」



「子どもから大人まで、みんなが主役になれる場」

➡ そして、新たな価値を生み出す“まちの拠点”へ

イ 新図書館が提供する機能の方向性①

「今後の市立図書館再整備の方向性」（令和6年12月策定）

市立図書館は、時代の変化や現在の図書館が抱える課題に対応するため、“機能分担”によりサービスを提供



新図書館は、「図書の貸出・閲覧等基本的な機能」の充実や、中央図書館、地域館等をつなぐネットワークを支える物流拠点機能により市民の読書活動を支え、市立図書館全体で図書サービスの向上を目指します。

●豊富な蔵書・閲覧機能

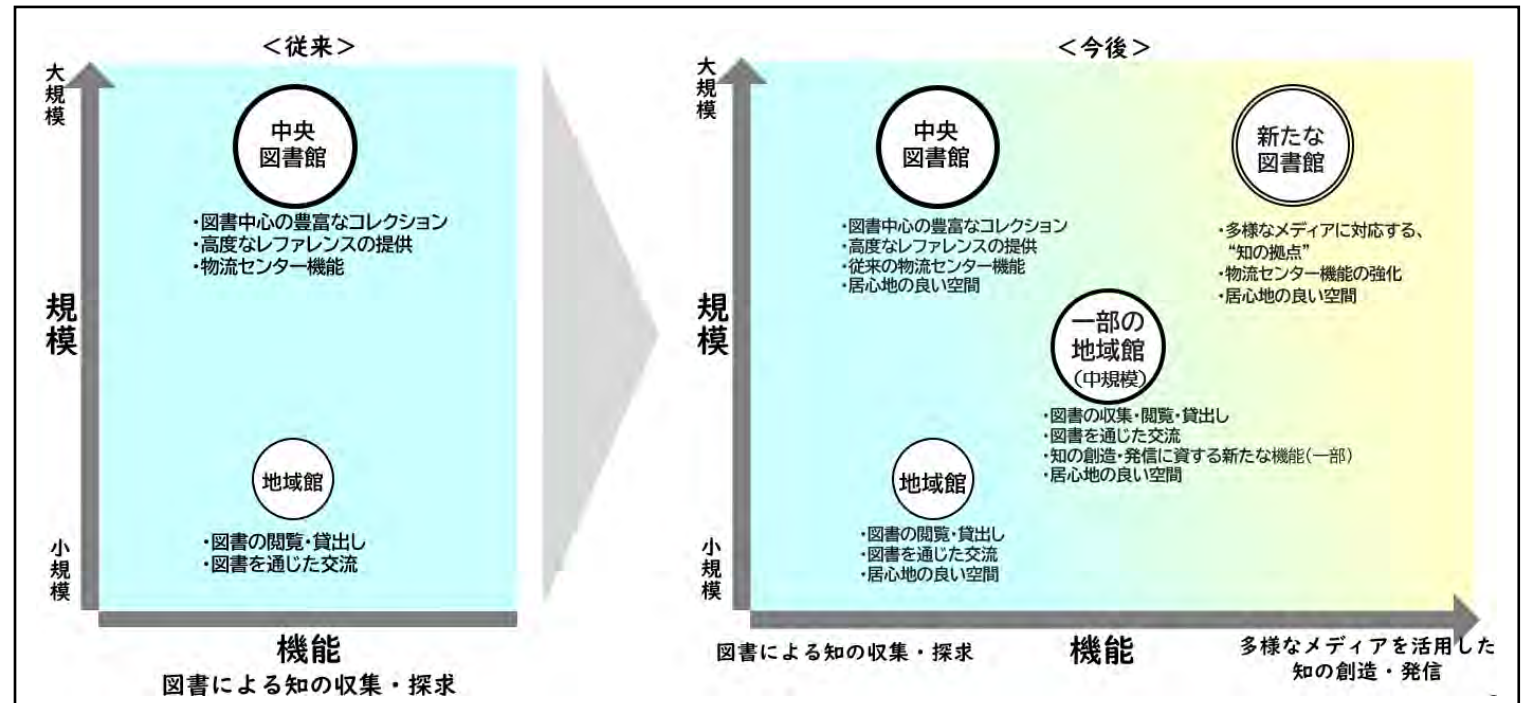
紙の図書をはじめとした多様な媒体を豊富に取り揃えとともに、人数や目的に応じた居心地の良い閲覧空間を整備

●レファレンス機能

AI等を活用した気軽に使える検索機能を備えるほか、司書による利用者に寄り添った情報提供

●物流拠点機能

中央図書館や地域館、取次拠点を
つなぐネットワークを支える物流拠点を整備



イ 新図書館が提供する機能の方向性②

新図書館は、「図書の貸出・閲覧等基本的な機能」や物流拠点機能に加え、利用者の様々な知的活動やニーズに合わせたサービスを提供できるよう、次の（１）～（４）の機能を持つ方向で検討しています。

この４つの機能を相互に連携させながら提供することで、新図書館を、図書館ビジョンが掲げる「新たな図書館像」を実現する場、新たな価値を生み出す“まちの拠点”としていきます。

（１）市民の関心・知的好奇心を呼び起こす仕掛け

→多くの人が知に触れる

例：新たな層を呼び込む空間展示

- デジタルを使った体験展示
- 多様な主体とのタイアップ企画
- 誰でも自由に過ごせる居心地の良い空間

等



※1

（２）五感で知に触れる、多様な体験の提供

→利用者の知が深まる

例：体感・没入型の文化コンテンツ

- 豊富な蔵書とメディア横断的なレファレンス
- 嗅覚・触覚も使ったVR体験
- 触れる、聴けるなど、体験できる展示

等



※2

< 知を深め、人をつなぎ、新たな価値を生み出す まちの拠点 >

（４）知を実践し、発信できる場の提供

→新たな価値が生まれ、社会に波及する

- 利用者による活動発表会
- 自著や創作品のPRイベント
- 企業や大学等とのマッチング

等

例：価値を発信するまちなかフェスティバル



（３）様々な人が互いに交流できる機会

→人が繋がり、知の幅が広がる

- 誰でも使える共同実験室
- 本の感想を語る交流ツール
- 多彩な講演やワークショップ

等

例：互いの知識を披露する交流プログラム



※1 「チームラボ ボタニカルガーデン 大阪」大阪市長居植物園, 大阪 ©チームラボ

※2 「体感型デジタルアート劇場 浮世絵 RE:BORN」Design and creative direction: GIANFRANCO IANNUZZI Multimedia content production: KARMACHINA ©角川武蔵野ミュージアム

ウ 整備場所選定の方向性

① 市域全体からの交通アクセス性

公共交通機関での来館を念頭においた、市内各地域からの所要時間 等

② 物流拠点としての道路適性、各拠点へのアクセス性

図書の物流を念頭に置いた、中央図書館・17地域館・各図書取次所等への自動車による所要時間等

③ 全市的なまちづくり、市域バランスの視点

都市計画マスタープランによる位置づけや、当該エリアにおけるまちづくりの強化、エリア内の類似の文教施設（図書館、美術館、博物館等）の状況 等

(3) 今後のスケジュール

- 9月上旬 新図書館に関する市民ワークショップの募集
※ 既存の市立図書館に関する満足度調査を、
同時期に実施予定
- 10～11月 新図書館に関する市民ワークショップ、
有識者ヒアリング等実施
- 令和7年度内 整備基本構想素案の公表、パブリックコメント
の実施、構想の策定

新しい図書館を 考えよう! 市民ワークショップ開催 (意見交換会) 参加 無料

横浜市では、現在、「新しい図書館」の整備を検討しています。これからの図書館は、読書だけでなく、様々な体験や交流などができる場所になることを目指しています。〈こんな体験ができるといいな〉、〈こんな過ごし方ができるといいな〉など、一緒に考えてみませんか？

申込期限 2025年9月22日(月)(必着)
会場 横浜市役所 横浜市中区本町6-50-10
会場の詳細は抽選結果通知時にお知らせします。

開催日時
第1回 2025年10月26日(日) 14:00～16:30
第2回 2025年10月29日(水) 18:00～20:30

対象 市内在住・在勤・在学の方(中学生以上)
募集人員 各回40人(事前申込・抽選) ※各回同じ内容です。

お申込みはこちら
横浜市電子申請・届出システム
右記の2次元コードの申込みページへアクセスしてお申込みください。

横浜市図書館ビジョン
「知る・学ぶ・深める」「つどい・思う」「遊ぶ・体験する」「まちとつながり・交流」「連携・協働」など、これからの図書館の目指す姿を示しています。新しい図書館もこのビジョンに基づいて検討していきます。

横浜市図書館ビジョン

詳細は裏面をご覧ください。

2 図書サービスへのアクセス性向上

本市の図書サービスは、他都市に比べ図書館・図書取次拠点の設置密度が低く、身近に感じにくい状況にあります。多くの市民が図書サービスをより身近に感じられるよう、「図書取次拠点」の増設に向けた検討を進めているところです。

～「今後の市立図書館再整備の方向性」（令和6年12月策定）～
《従来の考え方》

交通結節点や商業施設での設置を基本とし、サービス空白地域かつ多くの利用が見込める地域にある地区センター等の身近な公共施設においても設置を進める

《今後の考え方》

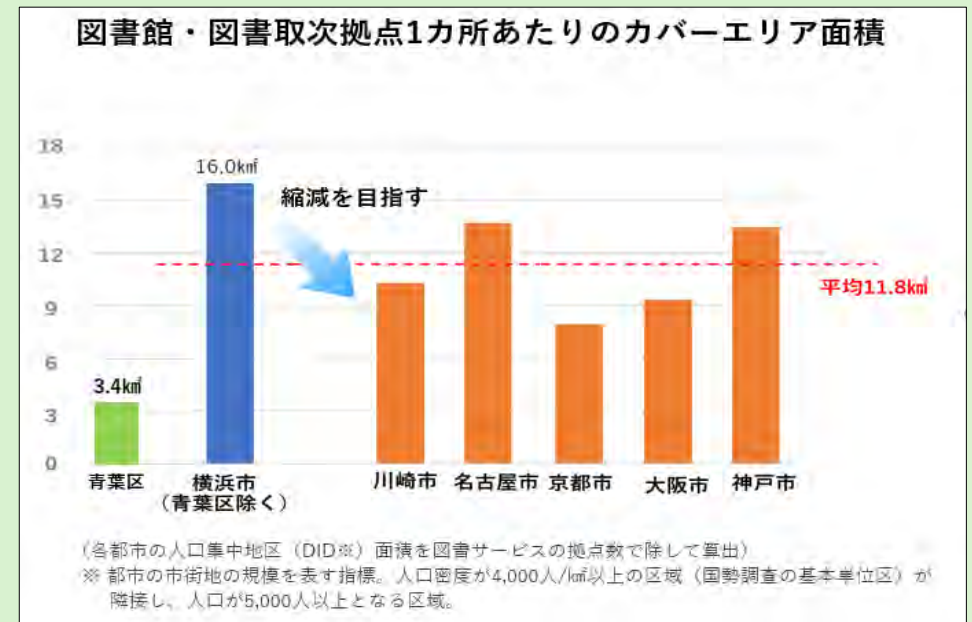
交通結節点や商業施設に加え、地区センターなど市民により身近な施設との連携を市域全体で進め、「図書取次拠点」を設置することを検討



港南台地区センターの図書取次窓口



日吉図書取次所（日吉の本だな）



「今後の市立図書館再整備の方向性」（令和6年12月策定）より抜粋

（１）図書取次拠点整備の基本的な考え方

	地区センター型	民間施設型 (交通結節点・商業施設など)
特色	既存施設の活用により、自宅から近いなど身近な場所に設置可能	交通結節点である駅から近いなど、通勤、買い物等利便性の高い場所に設置可能
規模	図書貸出カウンターのみを想定	図書貸出カウンターだけでなく、滞在空間も整備（商業施設型）
機能	図書貸出・返却の取次機能	図書貸出・返却の取次機能 ／短時間の滞在機能（例：本を選ぶ・企画展示）
ターゲット	昼間在宅者、児童生徒・保護者	通勤・通学者、買い物客、幼児連れ保護者
既存取次事例	港南台地区センターほか計８か所	二俣川、東戸塚、日吉、都筑南 計４か所

【参考】利用者アンケート結果

ア アンケート実施期間

令和7年7月7日（月）～27日（日）

イ 配付場所

既存の図書取次拠点全12か所*

*12か所：二俣川、東戸塚、日吉、都筑南、
地区C（港南台、美しが丘西、大場みすずが丘、奈良、藤が丘、
若草台）、田奈ステーション、青葉台コミュニティハウス

ウ 回答数

計1,761件

（電子申請1,108件、アンケート用紙651件、FAX 2件）

【主な分析】

現在の図書取次拠点は、それぞれ利用者層が異なっており、
増設にあたっては、様々なニーズに対応することが必要

- ・ 取次拠点までの所要時間
地区センター型：片道10分以内の利用者が多い、
民間施設型：片道20分以上など、より広範囲から利用
- ・ 取次拠点を利用する際の利点
地区センター型：家からの近接性が利点
民間施設型（特に、交通結節点）：駅やバス停からの近接性が利点
- ・ 取次拠点利用前後の目的
地区センター型：近接施設の利用や散歩、取次拠点の単独利用
民間施設型：通勤・通学や買い物のついでに来館する人が多い

	自宅から当該取次拠点までの片道所要時間	取次拠点を利用するのに便利だと感じる点	当該取次拠点を利用する前後にすること
地区センター型（n=849） （港南台地区センター等）			
民間施設型 ①商業施設（n=152） （都筑南（ららぽーと横浜内））			
②交通結節点（n=756） （二俣川、東戸塚、日吉）			
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 10分以内 ■ 2 10分から20分 ■ 3 20分から30分 ■ 4 30分以上 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 家から近い ■ 2 学校や職場など、目的地から近い ■ 3 電車の駅やバス停から近い ■ 4 近くに駐車場・駐輪場がある（自家用車や自転車で来館） ■ 5 遅い時間まで対応している ■ 6 早い時間から対応している ■ 7 その他 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 職場・学校・幼稚園・保育園、病院、習い事に行く ■ 2 買い物をする ■ 3 地区センターなど併設の施設を利用する ■ 4 散歩をする ■ 5 何もしない（図書取次拠点のみに行く） ■ 6 その他

(2) 今後の検討の考え方

- ◆全市的なバランスも踏まえ、令和7年度内に図書取次拠点の配置水準・規模を整理します。
- ◆取次拠点の増設に伴い拡大が想定される図書輸送量に対応するため、物流拠点の機能強化・安定的な物流網の確保・既存施設内のスペース確保等に向けた検討を進めます。